

幾度見ましても見あきることなし美事な字と眞の揃ふて居ります  
より西本をお貸し下されましてありがたうござりました

信州の山々の深山生て居りますので自分の知つて居ります山々の事を  
此処に書き出さして見ました

京都より西の方の諸国の山々ことに九州の山々は土地と氣候などの關係でても  
ありまじやうか美事な山々が深山ありまじやうか神めて居りました。

字と眞を見まじやうか思出

百四十二頁にのせてある木曾の御岳は物昔のうかとは見えませんが

山頂に御岳神社があり物昔の村から御岳講の人々がおまじやうかに行く

山でありまじやうか山頂は寒くがまじやうか昔の事でありまじやうか食残の時に

まじやうかのれる時に使つた日本紙を幾枚も張る合はせて作りました人が仲に入る

事の生る丈天紙袋が軽いのとそれとたんでもつて行き其の仲に入る

食料はもちとつと砂糖をつれると何町道もわづらく又米と豆をいり上げ

厚柿を作る時にむいた皮をほしておくと白粉がふきまじやうか甘いのとそれもまじやうか

石臼でむいた物処の人は香せんといふて居りますかそんな物もつて行て食料にした

おまじやうかあれば間に合ひ一番便利なもので古い古来のうか々の説明でありました

地図ののつて居る二百一頁物昔の村から西側に見える連峰の説明

地図の上に長野と書いてある右側に飯つた黒姫地高の隠今一ツ此処はまじやうか

居りませんが四百十頁の日本山名位置図にまじやうか飯つた山のオヤチ前川に

斑尾山(マドロ山)と処の人はいふて居り此の山の山が物昔の処から千曲川(千曲川)の

回山側はまじやうかに真西にまじやうか並んで居りますかこれを西の山といふて居り

四期それそれにはまじやうか景色を見せられて居ります

夕焼け時のまじやうか早景色等今でもまじやうかのため深び上つてまじやうか

妙高の山は特に神神しい女を見せられて居ります

百七十七頁と百十八頁にかけて此の山々の山々を見せられて居ります

二百一頁の地図のうかに妙高火山の隠連峰とある然に説明されて居ります

四百十九頁にある日本山岳位置図関東中部の地図を見ますと

利井の処から一番近り東山連峰上信越高原国立公園と書いてあるが記されて居るこれを志賀高原といふて居ります湯田中とあるのは山のぬ湯泉郷の所で  
あつて中野と書いて居る処が利井の処であります

二百十九頁の地図の説明 地図の左側中央に長野と書いてある側にも

志賀高原と記されてあります此の山ふところた山のぬ湯泉郷といはれていつ  
もの温泉場が立ちますが其処が山の仲に於いていつもの温泉が湧き出て居る

此の白根山はまた煙のくすぶて居る火山でありすがその山には萬座温泉といふ  
昔は軒しか宿屋がなく其の先づう山脈から来た処に群馬県の草津温泉白根が

ある長野原を通り前橋市に致る昔から馬の通る道が開かれて居りました  
えと前橋街道といはれて居る利井の村の上の夜間瀬橋が前橋街道

の丁目の起点であります

小学校の遠足の所此の山の仲の道を歩いて萬座温泉でじががころねの一曲を  
しましたか宿屋のすぐ側と大きな湯川が流れて居り皆で其の川の仲に入り

足を洗つて宿屋にのりまゐりましたか宿屋を荷を運んで来た馬も一匹は川の仲で  
足を洗つておいらせんで居りました事もよとおぼえて居りますそこから

白根山の中腹を通り草津温泉まで行て帰りました

スガダイフ

今この二百十九頁の地図の左側の長野と書いてある下の方に菅平とありますが  
これは利井の処から真南に見えます菅原であり此の山の仲で山灰を作る山灰たき  
の処からまっすんに立ち登る煙がよく見えた事も子供時代のなつかし

鬼つことなつて居ります

四百十九頁中に関東中部とあります地図の仲の上信越国立公園が  
二ヶ処に別れてありますか東側が志賀高原といひそれから西の方に又

赤い点々として記され其の仲の上信越高原国立公園とありますが利井の  
処から真西に走ると居る西の山とつられて居る連峰であります

今一ツ四百一十頁中にあります西の五岳のある上信越高原国立公園と  
ある下のちに長野と書いてある処が日本皇皇の一番古い所である  
善光寺のある長野市であり西の五岳の第一の山を城山といひて居ります  
此の長野市からは西南にかけて中部山岳国立公園と赤い点々のある  
一番下のちに奥穂高とありますがこの穂高高原の峰のある処であります  
百十五頁から深山此の山々の内を直ぐと居ります  
二百零八頁に槍ヶ岳穂高連峰と記された処に説明をされて居ります

知吾の処から真南に見える高平<sup>スガダラ</sup>の山々の中の中灰たき小屋のある山をみれ  
西の五岳との間の平原と河川が北に流れて越後の国に流れて行きます  
南方にもけて益々廣く善光寺平原が現れて行きます其の仲を千曲川が  
おびのけだうわらわとして流れて居る所が知吾の処は海拔千尺程の  
高台にありますので雨天の時にはけるかになめられますが其の南方の  
けてに低い山々が連なり其の又奥のす雲の上に山頂に雪をいただいた  
穂高連峰がたりなり特に槍ヶ岳が槍の如くに雪の上につきよつて  
居る所が雨天の日にはけりかになめられます  
皆なつかしい所である

知吾の中野から善光寺までは百里程であると思ひますか  
善光寺の城山に登ると雨天の日には本家の屋根敷にありました  
大杉の木が見ゆすられたと又か聞ひて居りましたかゆがうつろになつて  
来たことのでゆつて今ではなつかしい所です  
どうも御本とあらうかどうかいまいた

ル千五年四月

田中

睦子様